

明日香をさぐる

丙午と土馬

ひのえうま

2026年は丙午の年です。丙午にちなんだお話です。

2026年の干支は丙午です。干支とは、十干十二支の組み合わせで60通りあります。十干とは「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」の10通り。十二支はおなじみの「子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥」の12通りです。この二つを組み合わせると60通りあり、干支が一回りするには60年の周期がかかります。この組み合わせでいうと、2026年は「丙午」の年になります。十干の「丙」とは、五行思想で火の性質をもつ「陽」の火を意味するため、丙午は「火の馬」を象徴しています。

火のエネルギーは、情熱・勢い・変化の力をあらわし、馬は躍動・自由・進展を象徴します。占いや

風水からみれば、丙午の年は、新たな動きや挑戦など積極的な行動や大胆な意思決定によって急展開なことが起こるとみられています。

事実、つい先日には、飛鳥・藤原の宮都が世界遺産に登録されました。明日香村にとって世界に躍動する吉報がもたらされました。

ただ、世界に目を向けてみると、記録的な猛暑や山林火災など災厄が起きています。また、中東では火力を使ったイラン攻撃によって、火力燃料である石油価格が高騰し、消費者物価も上がり、生活に大きな影響を与えています。

丙午の年は迷信や言い伝えによって、ネガティブな歴史的出来

事がありました。これは日本だけで起きた出来事で、干支に対する日本独自の考え方に起因するものです。ですから、丙午の年がネガティブな年であるという科学的な根拠は全くありません。



▲甘樫丘から出土した土馬

馬にかかわる出土遺物に「土馬」があります。土馬とは馬の形を模した土製品で、飛鳥でも遺跡からよく出土します。遺跡から出土する土馬の多くは、一部が欠損しています。とくに脚が欠損していて、意図的に壊されています。それは祭祀や儀式で土馬が用いられたからです。

古代の人々は、疫病神が馬に乗っ

てやってくると思っていた。疫病神が入ってこないように、道路や土地の境界で代替品の土馬を壊して疫病神がやってこないように祭祀を行いました。

このほかにも、雨乞いや豊作祈願のために、農耕に必要な生きた牛馬ではなく、土馬を用いて儀式を行いました。

土馬は飛鳥時代から平安時代の祭式で用いられましたが、時代とともにその用途や形態が変化し、木製の馬形や神社に掲げる絵馬へと発展していきます。

一方、馬は神の使いとして「神様の乗り物」とされました。生きた馬を神社に奉納する「神馬」の神事はいまも行われています。白馬やユニコーン、ペガサスなど神話や伝承で登場する馬は、神聖で勝利をもたらし象徴とされています。

古くから馬は良いものも悪いものも乗せてくると考えられてきました。残りの2026年、誰が手綱を握るのかではなく、人間万事塞翁が馬と心得て、何事も馬九行久（うまくいく）と信じて駆け抜けましょう。

【明日香村教育委員会文化財課】